

## 6. コロンビアの日常4：家族の実態その1

天理教コロンビア出張所長  
清水 直太郎 Naotaro Shimizu

今回から数回にわたり、コロンビアの家族についての考察を行う。実際のところ、家族や家庭を言及する研究は、かなり困難を極めるだろうと思う。というのも、コロンビアは複数の人種があり、また男女の形態もまた他のラテンアメリカ諸国と同様に複雑だからである。しかしながら、この十数年コロンビアに生活をしていて、生活の「共通項」みたいな要素を体感してきたので、それを台として描くことにしたい。

## 1人親家庭

コロンビアに空手道場を開設して10年が経った。最初から、生徒の登録にとっても違和感を感じた。私が作った「生徒登録用紙」は、まさに日本的だったからである。なんとすれば、驚いたのは「1人親家庭」の多さである。登録用紙の欄に「両親の名前」の記入欄がある。この欄に、前述通り「母親」の名前しか記入していない生徒が圧倒的に多いのである。個人的な反省として、この欄には「保護者」や「責任者」などという言葉を書けば良かったと思っている。

コロンビアにおいて「単親家庭」を調べると、女性の家長の家がダントツに多い。単純に考えても母親が家庭を支えているのではないかと、思う。日本で言うならば「母子家庭」であり、理由は「離婚」「死別」「未婚」が大半である。「シングルマザー・母子家庭」というテーマ、つまり母親が「家長」のテーマは次回から扱いたいと思う。ちなみに「父子家庭」という言葉はコロンビアでは見あたらない。

## 両親のいない子供

コロンビアはまた、両親がいない家庭で暮らす子供が南米で多い国の一つである。資料には「結果はコロンビアの未成年者の11%が両親と暮らさず、27%がいずれかの親と一緒に暮らし、両親と生活しているのは62%である<sup>(1)</sup>、とある。ちなみに日本は「父母ともいる」世帯は90.9%、「母がいない」世帯は0.7%、「父がいない」世帯は8.3%、「父母ともいない」世帯は0.1%である（平成26年度全国家庭児童調査結果による）。

## 婚姻率（18歳～49歳の大人の結婚割合）

コロンビアの場合、まず結婚という形態から検証しなければならぬ。成人男女のカップルの中で、2013年は19%が民事結婚と教会結婚の形態をとっている。ちなみに、「同棲」しているのは35%にも上る<sup>(2)</sup>。ラテンアメリカ社会でも同様だろう、と考えたら国によってかなり違うのだ。言えることはコロンビアの婚姻率はラテンアメリカ諸国の中でもかなり低い。「World Family Map 2014」という資料をみると、コスタリカやメキシコはかなり高く、それぞれ62%と63%である。コロンビアの次に低いのがペルーで29%である。世界的には中東、アジアの婚姻率は高い。この資料には残念ながら日本が無いが、隣国の韓国は62%、台湾は56%と出ている（平成26年度全国家庭児童調査結果による）。日本は総務省の調査によれば、「15歳以上人口の配偶関係をみると、有配偶率は男性が60.8%、女性が57.0%」だそうだ。

## 事実婚・婚外子

婚姻の届けの法的処置は行っていないが、入籍している男女と同様の共同生活形態を「事実婚」という。法律上は「内縁関係」と呼ばれるらしい。この形態が時代とともに世界では増えているのが昨今の傾向である。法律上の婚姻関係がないのでそれぞれの国で色々な制約がある。

生まれる子供は非嫡出子とも婚外子とも言われる。婚外子

の数を見ると日本は圧倒的に低く、生まれてくる子供の僅か2.3%である（Newsweek日本版2017年7月号「婚外子が増えれば日本の少子化問題は解決する」より）。同資料でもチリ71.1%、メキシコ64.9%、と中南米は高く、ヨーロッパでもフランス56.7%、スウェーデン54.6%と半分以上が婚外子なのである。では、コロンビアはどうか？

「民事結婚と教会結婚の形態をとっていない女性から生まれたコロンビアの赤ちゃんは、全体の84%に上る<sup>(3)</sup>」。なんと84%の子供が婚外子なのである。この中には事実婚ではない「未婚の母」「シングルマザー」の子供も含まれている。

## 優先順位

「子供が欲しいなら、まず結婚だ」という考え方・習慣は、日本の場合、21世紀の現在でも主流だと思う。つまり、日本での順序「結婚」「出産」が世間体や周りからの偏見もあって「普通」だが、コロンビアは「関係」「出産」という順番かもしれない。「好きや、結婚しよ！」で始まり、「別の彼女と出来てしまった、ほなさいなら」の無責任さで終わる。こんな短絡的でもないだろうが、無きにしもあらずのような感じもする。人間の本能的、自分達の気持ちを素直に行動に表すのが国民性と表現すれば良いだろうか？

世界的に減少している「合計特殊出生率」（女性が一生に生む子供の数）はコロンビアでも減っているが、まだまだ出生数は欧米諸国に較べると多い方である。このことも実は、この婚外子の数に関係があるのではないかと、考えている。性交渉については、コロンビアの場合、未成年は18歳未満、同意があれば15歳以上は性交渉が可能であるが、14歳以下だと同意があろうがなかろうが「犯罪」になる。

興味深いのは、コロンビアの最初の性交渉の年齢である。それによると、少年・少女のうち12%の男性、6%の女性が14歳未満で初めての性交渉の経験があるという<sup>(4)</sup>。低年齢層の性交渉は、いわゆるシングルマザーに繋がってくるのではないだろうか？ それを裏付ける資料がある。「コロンビアの少年・少女の性交渉の年齢が少しずつ早まっており、その結果、20歳未満の母親の割合が1995年には17%、2000年には20%に達しているのだ<sup>(5)</sup>。

子供達がこの世に生を享けて暮らす「場所・空間」に責任を持つかどうか、これも大事な責任問題である。

## [註]

- (1) "Colombia: es el país en el que nacen más niños fuera del matrimonio" Sociedad Colombiana de Pediatría. <https://scp.com.co/actualidad-pediatria-social/colombia-es-el-pais-en-el-que-nacen-mas-ninos-fuera-del-matrimonio/>
- (2) "Colombia: crisis en el matrimonio" 22 julio 2013. <https://www.universia.net/co/actualidad/orientacion-academica/colombia-crisis-matrimonio-1038050.html>
- (3) "Colombia es el país en el que nacen más niños fuera del matrimonio." op.cit.
- (4) Departamento Nacional de Planeación "12% de hombres y 6% de mujeres adolescentes tienen primera relación sexual antes de los 14 años" <https://www.dnp.gov.co/Paginas/12-de-hombres-y-6-de-mujeres-adolescentes-tienen-primera-relacion-C3%B3n-sexual-antes-de-los-14-a%C3%B1os.aspx>
- (5) "Conocimientos sobre sexualidad en adolescentes escolares en la ciudad de Armenia, Colombia" AMC vol.19 no.6 Camagüey nov.-dic. 2015. [http://scielo.sld.cu/scielo.php?script=sci\\_arttext&pid=S1025-02552015000600003](http://scielo.sld.cu/scielo.php?script=sci_arttext&pid=S1025-02552015000600003)